

試験日 ： 2025 年 11 月 9 日（日）
入試種別 ： 3 年次編入学・転入学試験 一般入試
学部・研究科： 心理学部
科目名 ： 専門科目

解答又は解答例

設題 1， 2 について、評価のポイントならびに解答例を示す。

設題 1

1－①

名義尺度は、数値の間隔、大小、順番の概念はない。属性やカテゴリーを表すものである。例えば、「はい・いいえ」の回答を数値で表す場合である。順序尺度は、数値の間隔は必ずしも等しいものではなく、数値の大小や順序のみを示すものである。例えば、5 件法のアンケートの回答を数値で表す場合である。間隔尺度は、数値の間隔が等間隔であり、数値の差を比較できる。ただし、0 は何も無いという意味ではなく、また比率の比較はできない。例えば、温度として表された数値である。

このような内容をふまえて説明されているかどうかを確認している。その他、用語や語句等について記載された場合、内容を確認し評価している。

1－②

ピアジェによる認知発達の 4 つの発達段階における乳児期の頃の感覚運動期では、身体運動を用いて外界を知り、それが徐々に内面化されていく。2 歳頃からの前操作期では、ことばやイメージを象徴として用いることができるようになる。一方、自己中心性の影響を受ける。6 歳頃からの具体的操作期では、保存の概念の理解や具体的な対象であれば論理的に考えられるようになる。12 歳頃からの形式的操作期では、仮説演繹的思考が可能になるなど具体的な状況から離れて考えられるようになる。

このような内容をふまえて説明されているかどうかを確認している。その他、用語や語句等について記載された場合、内容を確認し評価している。

設題 2

2－①

機能不全家族とは、家族が本来果たすべき情緒的支援や問題解決、成員の成長を支える機能が十分に働かず、家族成員に困難が生じやすい状態を指す。1960～80年代に家族療法やアルコール依存症家族研究の中で広まった概念である。しかし近年は、家族を「正常／異常」と評価し病理化する危険性が指摘されている。そのため現在の家族療法では、機能不全というラベルよりも、家族が置かれた状況の中で形成された相互作用パターンとして理解する視点が重視されている。

2－②

児童虐待とは、保護者などが子どもの心身の健全な発達を損なう行為を行うことであり、大きく4種類に分類される。身体的虐待は殴る・蹴るなど身体に危害を加える行為、心理的虐待は暴言や無視、きょうだい間の差別的扱いなど心を傷つける行為、性的虐待は性的行為や性的な対象として扱う行為、ネグレクトは食事や医療、教育など子どもに必要な養育を怠る行為である。これらは単独で生じるとは限らず、複数が重なって現れることも少なくない。